

# フィリピン専門図書館協会 -- 第一回全国大会参加 報告（ライブラリー・コーナー）

著者	澤田 裕子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	196
ページ	55-55
発行年	2012-01
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00004088">http://hdl.handle.net/2344/00004088</a>

## フィリピン専門図書館協会 第一回全国大会参加報告

澤田裕子

二〇一一年一〇月一九〜二一日、フィリピンで開かれたフィリピン専門図書館協会（ASLP）第一回全国大会に参加し、アジア経済研究所学術研究リポジトリ（ARRIDE）について発表する機会を得た。主催者を含む九十九名が国内外から参加し、「前進—急速に変化する環境における図書館・情報センターの運営」というテーマで報告を行った。ASLPは政府・民間部門の専門図書館から成る非営利団体で一九五四年に創立した。開催地のバギオ市はルソン島のコルディエラ行政地域にある人口約三〇万人の都市で、首都マニラから約二五〇キロの高地にある。

全国大会は、まず全員が起立して讃美歌と国家を斉唱し、ASLP会長、Shiley I. Cruz氏の宣言により幕を開けた。続いて、フィリピン図書館協会会長、Thelma Kim氏が開会式来賓と基調講演者を紹介した。来賓のバギオ市長、Hon. Mauricio Domogan氏が

開会の祝辞を述べ、大会の成功を祈って主催者側を激励した。基調講演者である在フィリピンアメリカ大使館のRoger D. Delos氏は、オバマ大統領の「図書館はより広い世界に開かれた窓である」という言葉を引き、図書館の重要性を喚起した。また、持ち運び可能な通信機器は情報量の少ない場所に情報をもたらすことができるとして、最新メディアの利便性に言及し、電子化時代においてもライブラリアンは情報を評価し、良質のコレクションを構築する大切な役割を担っていると述べた。

次に各報告から、フィリピン国立図書館、専門家庭教育情報共有と図書館連携、および保存とアクセスについて紹介する。

フィリピン国立図書館（NLDP）は研究・出版部のJennifer Annan氏によつて、一九〇〇年に設立したアメリカ貸出図書館を前身とし、約一〇〇年に亘って機能を拡張し、国家図書館と公共図書館

の機能を兼ね備えるようになった。全ての利用者に開かれたNLDPの活動が紹介された後、資料保存に関連して電子化の研究助成に関する多くの質問が出た。また、フィリピン大学図書館・情報学部のJohann Frederick Cabbab氏が同学部の歴史と活動を紹介した。唯一の国立大学であるフィリピン大学は一九〇八年に創立し、一九一四年に教養学部で図書館学コースが提供され、一九一六年に大学レベルに引き上げられた。一九六一年に研究機関として独立し、一九六二年には大学院課程を設置している。初期の頃からアメリカの図書館学校への留学制度を設けるなど、本格的なプログラムを導入し、最新の情報技術に長けた人材を輩出している。

情報環境の変化を積極的に捉えた報告が多く、在フィリピンアメリカ大使館トーマスジェファースン情報センタ―、Reyna Alenzuela氏からは、一つの情報資源を複数で共有できる電子資料の利点を活かした情報発信の例が述べられた。雑誌記事や政府文書に課題をつけたアラートニュースや無料のオンライン

情報を主題でまとめたweblogなど挙げ、情報共有こそが電子化時代のライブラリアンの任務であると主張した。また、アメリカ・コネル大学図書館のMarcia氏は戦略的な図書館連携を提案した。コロンビア大学図書館と共同で蔵書構築や資料収集を行う2CULプロジェクトを例に挙げ、予算の削減と有効活用について述べた。有名大学同士の図書館連携であるため注目度も高く、さらなるブランドの確立も期待される。

そのほか、同大学は物理化学分野の主要なオープンアクセス（OA）資源、ArXivを主宰し、図書館が維持・メンテナンスを行っている。連携協力を共存の手段として考え、支援機関を募集し、現在は二七機関と共同で費用を負担している。アジア経済研究所図書館のARRIDEはOA資源とシステム上で連携するとともに、学術情報への効果的に研究成果を発信している。OA資源を無料で提供するには多額のコストが必要であると改めて認識し、提供側の事情を知るよい機会になった。

一方、アテネオ・デ・マニラ大学歴史学部のAmbeth Ocampo氏は、フィリピン、イギリス、アメリカでリサーチを行った経験をもとに、貴重資料の保存とアクセス、情報のオンライン化の弊害について語った。手稿などの個人文書はもとより所蔵情報十分に公開されず、保存を理由に閲覧も制限されがちである。過去のライブラリアンが故意に隠していたり、OPACで検索できないために「ない」と言われた資料が書庫で埋もれていた例を挙げ、リサーチの最前線にいるライブラリアンは門番ではなく、正確で十分なアクセスを提供するべきであると述べた。

大会を通して、歴史のあるフィリピンの図書館学校で育成されたライブラリアンは、専門家として情報環境の変化にも迅速に対応していると感じた。一方、電子化と資料保存、オンライン情報の正確性など、各国に共通の留意すべき問題点があることも知った。このような有意義な機会を与えてくださった主催者の皆様に心より感謝したい。（さわだゆづこ／アジア経済研究所 図書館資料企画課）